報道発表

文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

令和７年３月２８日

# 「高度医療人材養成事業（大学病院における医療人材養成環境の更なる高度化）」について、公募の結果、27 件を選定しました

「高度医療人材養成事業（大学病院における医療人材養成環境の更なる高度化）」について、27 事業を選定しましたのでお知らせします。

## １．目的

中長期的かつマクロに見れば、医師需要は減少局面に入ることが見込まれますが、現時点で、医師の地域・診療科偏在の解消には至っていないなど、社会ニーズに対応した医療人材を養成するための教育プログラムの充実が必要だと考えられます。本事業は、各大学病院の置かれる実情等を踏まえた医療人材養成機能の充実を図るため、教育・研究に供する高度な機能を持つ最先端医療設備の整備を支援し、我が国の「未来の医療」を担う高度医療人材の養成に貢献することを目的としています。（参考資料２）

## ２．選定結果

このたび、医学部を置く各国公私立大学の学長宛に公募を行った結果、73 件の申請があり、高度医療人材養成事業推進委員会（以下「推進委員会」とする。）における審査を踏まえ、27 件の事業を選定しました。（参考資料１，３）

## ３．審査結果

今回の審査において、推進委員会（委員長：新木　一弘（独立行政法人国立病院機構　理事長）から所見が述べられました。（参考資料４）

## ４．その他

本選定結果は、文部科学省ウェブサイトにも掲載しています。

＜本件に関する問合せ先＞
大学病院支援室
室長補佐　　小川　優
病院第二係長　小島　慎平
電話　03－5253－4111（2096, 2578）

# 高度医療人材養成事業（大学病院における医療人材養成環境の更なる高度化）
# 選定大学一覧

申請件数：73件、選定件数：27件

| Ｎｏ | 区分 | 大学名 | 事業名 | （参考）本事業で整備予定の医療設備 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 国 | 秋田大学 | AI活用スキルを備えた地域医療人材養成事業 | X線撮影装置,画像診断支援ソフト,内視鏡システム等 |
| 2 | 国 | 筑波大学 | 脳心血管カテーテルインターベンションの遠隔ライブ映像システムの活用による地域医療人材の育成 | 血管造影装置 |
| 3 | 国 | 千葉大学 | 高度専門外科医養成プロジェクト | 人工心肺装置,術中ナビゲーションシステム,筋電図・誘発電位検査装置 |
| 4 | 国 | 富山大学 | 地域医療の革新を担う<br>～低侵襲手術×感染管理クロススキル人材養成プログラム～ | 内視鏡システム,感染症遺伝子・タンパク発現検出システム |
| 5 | 国 | 金沢大学 | Tele-geomedicine（遠隔過疎地域医療）の実現に向けた最先端医療技術を有する肝胆膵診断・治療を担う高度医療人材養成事業 | 内視鏡システム,手術支援AI |
| 6 | 国 | 山梨大学 | 血管内治療（IVR）専門医人材養成事業 | IVR-CTシステム |
| 7 | 国 | 信州大学 | 高度外科系医療人材の育成と地域医療の未来：精密手術技術と遠隔支援を活用した信州モデル | 手術支援ロボット,手術用顕微鏡システム |
| 8 | 国 | 岐阜大学 | 岐阜県地域医療に対して大いに貢献しうる『次世代の匠』養成事業 | 手術用顕微鏡システム |
| 9 | 国 | 京都大学 | 新規放射線治療技術・装置の研究開発能を有する放射線治療医および医学物理士養成事業 | 放射線治療計画システム |
| 10 | 国 | 神戸大学 | 次世代外科医養成プログラム | PET/MRI |
| 11 | 国 | 島根大学 | 顔面・頭蓋底治療センターを核とした高度医療人材養成プログラム | 手術用顕微鏡システム |
| 12 | 国 | 岡山大学 | 持続可能な外科医療提供体制構築に向けた高度医療人材養成推進事業 | 手術用顕微鏡システム,遠隔手術支援システム,血管造影装置 |
| 13 | 国 | 広島大学 | 遠隔支援・AIを活用した次世代地域医療人材の育成プログラム<br>ー広島モデルー | 遠隔ICUシステム,内視鏡システム,画像診断支援ソフト等 |
| 14 | 国 | 香川大学 | 「高度医療人材育成計画」展開のための技術習得を可能にする教育プログラム | 手術支援ロボット,術中ナビゲーションシステム,超音波診断装置 |
| 15 | 国 | 愛媛大学 | 愛媛県下におけるSHD診断・治療医養成プログラム | 血管造影装置 |
| 16 | 国 | 長崎大学 | 長崎県におけるローカル5G遠隔医療映像診断システムを用いた高度医療人材養成事業 | 内視鏡システム,超音波画像診断装置 |
| 17 | 国 | 大分大学 | 地域医療を支え最新の低侵襲手術に精通する次世代の外科系医師および多職種医療人材育成事業 | 手術支援ロボット |
| 18 | 国 | 宮崎大学 | 脊椎外科次世代育成プログラム | 手術支援ロボット,手術用顕微鏡システム,モジュラーテーブルシステム |
| 19 | 国 | 鹿児島大学 | 離島・へき地で活躍するAI活用能力を身に着けた高度医療人材養成事業 | 画像管理システム |
| 20 | 公 | 札幌医科大学 | 遠隔集中治療（eICUプログラム）を通じた地域医療人材育成事業 | 遠隔ICUシステム |
| 21 | 公 | 名古屋市立大学 | 最先端医療とITを活かした6年一貫教育<br>～未来志向型地域医療人材育成プログラム～ | 手術支援ロボット,断層画像撮影システム,内視鏡システム |
| 22 | 公 | 京都府立医科大学 | IVR-ブリッジ教育プログラム | 血管造影装置 |
| 23 | 私 | 東京慈恵会医科大学 | 救急初療室の手術室化とDX連携による高度救急医療人材養成事業 | 手術室遠隔医療機器,X線撮影装置,移動式手術台等 |
| 24 | 私 | 東邦大学 | 地域医療及び薬学領域への人材育成プログラム | 手術支援ロボット |
| 25 | 私 | 藤田医科大学 | 藤田医科大学「総合力を有する循環器専門医」養成プログラム | 血管撮影装置 |
| 26 | 私 | 大阪医科薬科大学 | 高度画像統合技術を活用した次世代医療人材育成プログラム | 血管造影装置 |
| 27 | 私 | 久留米大学 | AI黎明期における医用画像エキスパート養成事業 | MRI,画像診断支援ソフト |

# 高度医療人材養成事業

## （大学病院における医療人材養成環境の更なる高度化）

令和6年度補正予算額　50億円

文部科学省

### 背景・課題

・中長期的かつマクロに見ると、**医師需要は減少局面**に入ることが見込まれるが、**医師の地域間・診療科間等の偏在問題は依然解消に至っておらず、社会ニーズに対応した医療人材を養成するための教育プログラムの充実**が必要。

・また、医療の高度化を実現する最先端の医療設備の活用能力を含め、医療人材が習得すべき知識・技能は益々増加していることなど、**医療現場である大学病院におけるより実践的な医療人材養成の推進**が必要。

・大学病院における教育・研究機能の一層の充実・強化が求められている中で、大学の実情に応じ、**我が国の「未来の医療」を担う医療人材の養成環境を整備し大学病院の機能強化を図ることは喫緊の課題**である。

### 事業内容

各大学病院が置かれている実情等を踏まえて取り組む**特色ある教育・研究分野での医療人材養成プログラム**※1を実施するための**最先端医療設備**※2**の整備を支援し、医療人材の養成環境の更なる高度化**を図る。

※１　大学病院改革プランなどにおいて整理された各大学病院の役割との整合がとれたもの。
【養成する人材像の例】
①地域医療を中心に従事する医師
②特定の診療科に従事する医師
③研究に主として従事する医師
④大学病院を中心に従事する医師　等

※２　教育・研究に供する高度な機能を持つ医療設備。

| 件数 | 25件 | 単価 | 上限2億円 |
|---|---|---|---|
| 交付先 | 附属病院を置く国公私立大学 | | |

### 事業イメージ

### 成果イメージ

・大学病院における人材養成環境を高度化し、地域間・診療科間等における医師偏在の課題をはじめとした社会で求められる医療人材の養成機能を強化。
・大学病院における医師の働き方改革と大学病院の教育・研究機能の強化を両立し、大学病院改革の加速化。
⇒「現在の医療」及び「未来の医療」に対応し、安定した医療人材を輩出する基盤を構築する。

（担当：高等教育局医学教育課）

## 高度医療人材養成事業推進委員会　推進委員名簿

※五十音順（敬称略）

| | |
|---|---|
| 新木　一弘 | 独立行政法人国立病院機構　理事長 |
| 磯部　紀子 | 九州大学大学院医学研究院神経内科学　教授 |
| 小西　靖彦 | 順天堂大学医学教育研究室　特任教授 |
| 多胡　雅毅 | 佐賀大学医学部附属病院総合診療部　教授 |
| 寺内　康夫 | 横浜市立大学医学部医学科　教授 |

計５名

## 高度医療人材養成事業推進委員会　専門委員名簿

※五十音順（敬称略）

| | |
|---|---|
| 安達　　献 | 独立行政法人国立病院機構相模原病院　病院長 |
| 稲垣　　優 | 独立行政法人国立病院機構福山医療センター<br>病院長 |
| 井上　大輔 | 帝京大学ちば総合医療センター第三内科学講座<br>教授 |
| 岩﨑　浩己 | 独立行政法人国立病院機構九州医療センター<br>病院長 |
| 植木　浩二郎 | 国立研究開発法人国立国際医療研究センター<br>研究所・糖尿病研究センター　センター長 |
| 大須賀　穣 | 東京大学大学院医学系研究科産婦人科学　教授 |
| 太田　邦雄 | 金沢大学医薬保健研究域医学教育学　教授 |
| 大塚　文男 | 岡山大学学術研究院医歯薬学域総合内科学　教授 |
| 片岡　仁美 | 京都大学医学研究科医学教育・国際化推進センター<br>教授 |
| 菊川　　誠 | 九州大学大学院医学研究院医学教育学講座　准教授 |
| 北岡　裕章 | 高知大学教育研究部医療学系臨床医学部門<br>（老年病・循環器内科学）　教授 |

| | |
|---|---|
| 小寺　泰弘 | 独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター<br>病院長 |
| 小林　佳郎 | 国立病院機構東京医療センター　病院長 |
| 小松　弘幸 | 宮崎大学医学部医療人育成推進センター　教授 |
| 米野　琢哉 | 独立行政法人国立病院機構水戸医療センター　院長 |
| 佐々木　陽典 | 東邦大学医学部総合診療・救急医学講座　教授 |
| 志水　太郎 | 獨協医科大学総合診療医学講座　主任教授 |
| 相馬　孝博 | 千葉大学医学部附属病院医療安全管理部　特任教授 |
| 高橋　　毅 | 独立行政法人国立病院機構熊本医療センター　院長 |
| 髙橋　　誠 | 北海道大学大学院医学研究院医学教育･国際交流推進センター　教授 |
| 高村　昭輝 | 富山大学学術研究部医学系医学教育学講座　教授 |
| 土岐　祐一郎 | 大阪大学大学院医学系研究科外科学講座消化器外科学　教授 |
| 中川　敦寛 | 東北大学病院産学連携室長　教授 |
| 中村　真理子 | 東京慈恵会医科大学教育センター　教授 |
| 西岡　安彦 | 徳島大学大学院医歯薬学研究部呼吸器・膠原病内科学分野　教授 |
| 西﨑　祐史 | 順天堂大学医学部医学教育研究室　教授 |
| 野出　孝一 | 佐賀大学　医学部長／内科主任教授 |
| 平賀　博明 | 独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター<br>院長 |
| 福治　康秀 | 独立行政法人国立病院機構琉球病院　病院長 |
| 松島　加代子 | 長崎大学病院医療教育開発センター　教授 |
| 矢野　晴美 | 国際医療福祉大学医学部国際医療者教育学<br>教授（代表）・感染症学　教授 |
| 山本　　憲 | 順天堂大学健康データサイエンス学部　教授 |
| 吉田　素文 | 熊本大学大学院生命科学研究部総合医学教育学講座<br>教授 |

計 33 名

令和７年３月

# 高度医療人材養成事業推進委員会　所見

中長期的かつマクロに見れば、医師需要は減少局面に入ることが見込まれますが、現時点で、医師の地域・診療科偏在の解消には至っていないなど、社会ニーズに対応した医療人材を養成するための教育プログラムの充実が必要だと考えられます。本事業は、各大学病院の置かれる実情等を踏まえた医療人材養成機能の充実を図るため、教育・研究に供する高度な機能を持つ最先端医療設備の整備を支援し、我が国の「未来の医療」を担う高度医療人材の養成に貢献することを目的として、公募を行いました。

公募の結果、申請のあった７３件の事業において、実施する教育プログラムの内容・背景、事業の運営体制・連携体制及び最先端医療設備の具体的な活用方法に関する計画等について、本委員会による書面審査、合議審査を実施し、採択大学の地域、設置主体のバランスを考慮した上で特に優れた２７件の事業を選定しました。

まず、今回、公募要領上、選定件数を２５件程度としていた中で７３件の申請があったことについては、大学病院における地域のニーズに対応した教育プログラムの実施及び最先端医療設備を活用した教育・研究に対する関心の高さを表すものと受け止めるとともに多くの提案をいただいたことについて委員会として感謝申し上げます。

その中で、今回、選定された大学は各取組とも、実現性が高く、創意工夫されたものとなっておりますが､事業計画を確実かつ迅速に実行していただきたいと考えます。

また、選定された各大学には、我が国における大学病院での高度医療人材の養成の発展に貢献いただくとともに、下記の点についても期待します。

〇他大学の参考となるよう、特色ある先進的な取組やモデルとなる取組について、実現するためのノウハウ、留意点等も含めて積極的に情報発信するなど、 成果等の普及・展開に努めること。

〇長期的な展望に基づく具体的な事業継続方針を策定の上、補助期間終了後は更に発展的な教育プログラムを実施できるよう工夫して取り組むこと。

一方、相対比較の結果、今回残念ながら選定に至らなかった各大学においても、申請いただいた事業に対し、本委員会から申請内容の優れた点や改善を要する点等についてお伝えしますので、参考にしていただくとともに、本事業の趣旨も生かして、大学病院における教育プログラムの充実に取り組んでいただくことを強く期待します。

高度医療人材養成事業推進委員会
委員長　新木　一弘